

一粒の麦 場面五

女子教育の道へ

女性私塾で助教を務める吟子の所へ。
松本荻江から学問を勧められる。

写真と解説はイメージです。史実と異なる場合もあります。

上京した吟子は、国学者であり、かつ皇漢医である井上頼圀の私塾神習舎に入ります。頼圀は後に国学の大家となる人物です。翌年には甲府に女性私塾の設立を目指していた内藤満寿子の求めにより、助教として甲府に赴きます。この後、吟子は再び東京に戻り、女子高等師範学校（現 お茶の水女子大学）の第1期生として入学し、首席で卒業しました。